

各障がいの理解と関わり方について1 ～知的障がい～

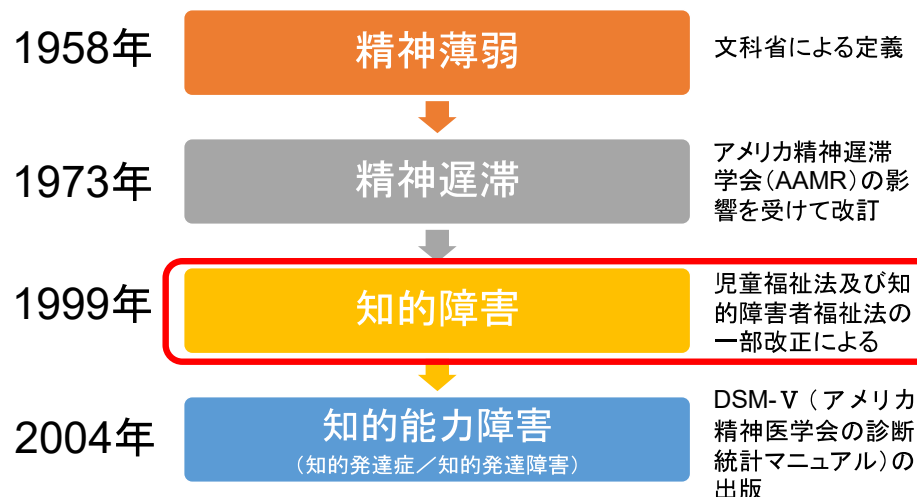
北海道立特別支援教育センター

1

1 知的障がいとは

2

(1) 「知的障がい」の用語の変遷



「特別支援学級担任のための学級経営サポートQ&A」三浦 光哉 (ジアース教育新社)

3

(2) 知的障がいとは

ア 知的障がいの定義

知的障害とは、一般に、同年齢の子供と比べて、「認知や言語などにかかわる知的機能」の発達に遅れが認められ、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。また、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われている。

知的機能 + 適応行動

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (令和3年6月)

4

イ 知的機能の発達の遅れとは

知的機能とは

- ・認知
- ・記憶
- ・言語
- ・思考
- ・学習
- ・推理
- ・想像
- ・判断

等

→ 同年齢の子供と比較した際に、
平均的な水準より明らかな遅れ
がある。

知的機能の発達の明らかな遅れ

※検査の誤差、身体・心理の状態、検査者との
信頼関係の影響も考慮する必要があります。

- ・おおむね知能指数が70～75程度以下としている

知能検査の結果がほぼ同じでも、生活年齢や経験な
どによって状態像が大きく異なることに留意が必要です。



「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3
年6月）

5

ウ 適応行動の困難性とは

適応行動とは

- ・他人との意思の交換
- ・日常生活や社会生活
- ・安全
- ・仕事
- ・余暇利用

等

→ その年齢段階に標準的に要求さ
れるまでには至っていない。

適応行動の習得や習熟に困難があるために、
実際の生活において支障や不利益を来している状態

必要な支援や配慮なしに、適応行動の習得が可能
であるかどうかを把握しておくことが大切です。



「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3
年6月）

6

❖ 特別支援学校学習指導要領に示されている 適応行動の困難さ

○ 概念的スキルの困難性

- ・言語発達：言語理解、言語表出能力など
- ・学習技能：読字、書字、計算、推論など

○ 社会的スキルの困難性

- ・対人スキル：友達関係など
- ・社会的行動：社会的ルールを理解、集団行動など

○ 実用的スキルの困難性

- ・日常生活習慣行動：食事、排泄、衣服の着脱、清潔行動など
- ・ライフスキル：買い物、乗り物の利用、公共機関の利用など
- ・運動機能：協調運動、運動動作技能、持久力など

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」文部科学省
（平成30年3月）

7

エ 知的障がいの捉え方

概念的領域

- ・読み書きや数字
- ・論理的思考
- ・知識や問題解決 など

1 2 3
あいう

社会的領域

- ・対人、コミュニケーション
- ・社会的判断
- ・自己制御 など



実用的領域

- ・金銭管理
- ・行動の管理 など



知的機能

適応行動

最重度

重 度

中等度

軽 度

環境や社会的条件との関係で、その障がいの状態が
変わり得る場合があることに留意する必要がある。

「知的障害とは？特徴や原因、診断について」LITALICOジュニア（<https://junior.litalico.jp/about/hattatsu/chiteki/>）を参考

8

2 知的障がいの特徴と困難さの理解

9

(1) 知的障がいの特徴

読字・書字・算数などの習得



柔軟に考え、物事に対処すること



コミュニケーションや相手の意図を正確に理解すること



食事や身支度など、身の回りのことの自立



「知的障害とは？特徴や原因、診断について」LITALICOジュニア (<https://junior.litalico.jp/about/hattatsu/chiteki/>) を参考

10

(2) 年代別で起こりやすいこと

小さい頃

学校に通う時期

大人になると…



発達がゆっくり

勉強

友達関係

仕事

お金の管理

家事や育児…

知的障がいのある方が感じるいろいろな気持ち

分からない 話についていけない 孤立 また怒られた…
自信がない どうしたらいいの？ 精一杯やっているのに…

「子ども情報ステーション」ぶるすあるは／さいたま市障害者更生相談センター (https://kidsinfo.net/disorder/illust-study/intellectual_disabilities/)

11

3 知的障がいの状態の把握に当たって

12

(1) 教育的側面からの知的障がいの状態の把握①

発達の状態等に関すること

- ・ 身辺自立（食事、排せつ、着替え 等）
- ・ 社会生活能力（買い物、公共機関の利用 等）
- ・ 社会性（社会的ルールの理解、集団行動 等）
- ・ 学習技能（読字、書字、計算、推論 等）
- ・ 運動機能（協調運動、持久力 等）
- ・ 意思の伝達能力と手段（言語の理解と表出の状況と手段 等）

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3年6月）

13

- ・ 対人関係
 - * 実用的なコミュニケーションが可能であるか。
 - * 協調性があり、友達と仲良くできるか。
 - * 集団に積極的に参加することができるか。
 - * 集団生活の中で、一定の役割を果たすことができるか。
 - * 自分の意思を十分表現することができるか。
- ・ 身体の動き
 - * 粗大運動が円滑にできているか。
 - * 微細運動が円滑にできているか。
 - * 目と手の協応動作が円滑にできているか。
- ・ 自己の理解
 - * 学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲をもっているか。
 - * 自分のできないこと・できることについての認識をもっているか。
 - * 自分のできないことに関して、教師や友達の支援を適切に求めることができるか。

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3年6月）

15

(1) 教育的側面からの知的障がいの状態の把握②

本人の障害の状態等に関すること

- ・ 学習意欲、学習に対する取組の姿勢や学習内容の習得
 - * 学習の態度（着席行動、姿勢保持）が身に付いているか。
 - * 学習や課題に対して主体的に取り組む態度が見られるか。
 - * 学習や課題に対する理解力や集中力があるか。
 - * 読み・書き・計算などの学習の習得の状況はどうか。
- ・ 自立への意欲
 - * 自分で周囲の状況を把握して、行動しようとするか。
 - * 周囲の状況を判断して、自分自身で安全管理や危機回避ができるか。
 - * 自分でできることを、他者に依存していないか。
 - * 周囲の支援を活用して、自分のやりたいことを実現しようとするか。

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3年6月）

14

(2) 諸検査等の実施による把握

知的機能のアセスメント

- ・ 田中ビネー知能検査
- ・ WISC-V
- ・ KABC-II
- ・ 新版K式発達テスト
- ・ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査 等

適応行動のアセスメント

- ・ S-M社会生活能力検査第3版
- ・ 日本版Vineland-II 適応行動尺度 等

検査の実施は、**習熟した検査者が担当**しましょう。
また、検査の結果は、子供の実態の一部です。**数値だけを切り離して判断するのではなく、日常の様子や他の調査結果等と関連させて解釈する必要があります。**



「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3年6月）

16

各障がいの理解と関わり方について 1 ～知的障がい～

北海道立特別支援教育センター